

児童養護施設での学習支援活動

事業責任者：川戸 栄（工学研究科・准教授）

代表学生：三浦 柊一郎（工学部・2年）

概 要	虐待や経済的な理由などにより、福井県内で約 160 名の子供たちが児童養護施設で暮らしている。施設で暮らしている子供たちの中には、学業不振など、様々な問題により将来に関して悲観的になり、進学も諦めてしまいがちな子供もいる。そこで、本事業では、子供たちが進学を目指すだけでなく、社会で生き抜くための自信や意欲を育むことを目的とする。このために、県内の児童養護施設の子供たちを対象に、ものづくり教育や教示実験実習を含めた幅広い学習支援を行った。
関連キーワード	児童養護施設, 学習支援, 教示実験実習, 工作, ものづくり

事業の背景および目的

虐待や経済的な理由などにより、児童養護施設において、全国で 27,288 人(平成 28 年 10 月 1 日現在)の子供たちが、福井県内においても 163 名(平成 25 年 10 月 1 日現在)の子供たちが暮らしている^{1,2)}。施設で暮らしている子供たちの中には、学業不振や経済的な理由など、様々な問題により将来に関して悲観的になり、進学も諦めてしまいがちな子供も多い。児童養護施設の子供の高校等への進学率は、平成 26 年度の全国平均で 95.2%となっており、一般の場合の 98.5%と同程度にまで改善されてきている。これに対して、高校の卒業生の大学等への進学率は全国平均で 11.1%と極めて低く、一般の場合の 54.5%に対して約 5 分の 1 に留まっているという状況がある²⁾。彼らの進学率を上げるだけでなく、社会で生き抜くための自身や意欲を育むためには、試験勉強ばかりで勉強嫌いにならないよう、子供の頃から好奇心や興味を育む必要がある。

そこで、本事業では、福井県内の児童養護施設で暮らしている子供たちに対して、授業の補習や試験対策などの家庭教師だけでなく、ものづくり教育や教示実験実習などを含めた幅広い学習支援を行う。これにより、子供たちが進学を目指すだけでなく、将来、社会で生き抜くための自信や意欲を育むことを目的とする。

事業の内容および成果

まず、授業の補習や試験勉強の指導に関しては、本学学生サークル BBS の学生が家庭教師になって行った。次に、ものづくり教育では、県 BBS 連盟、仁愛大学および本学学生サークル BBS の共催のもと、ハロウィーンをテーマにしたオブジェクトの制作を行った。子供たちがグループになり完成させた作品を、一般の方を対象にして展示・発表した。作品の作成過程や発表の場を通して、子供たちが自由に語り合う場をつくり、コミュニケーション力、グループワーキング力、プレゼンテーション能力も含めた総合的な能力の養成を行った。

また、教示実験実習では、本学の学生サークルからくり工房 I, Sys と国際光学会学生支部(OSA)、国際光工学会学生支部(SPIE)、国際電気電子学会学生支部(IEEE)の共催のもと、光に関する自然現象を利用した教材や、ロボットを教材とした体験型の教育を行った。光の教示実験装置では、屈折の分散、偏光と複屈折を利用した虹、光の 3 原色の色眼鏡やダイクロイックミラーを利用した色の合成などを行った。ロボットを用いた実習では、有線で遠隔操作できるロボットによるロボット相撲競技や、白線で書かれた競技コースを光センサーによりトレースするロボットカーをもちいたロボットレース競技を実習した。

これらの取り組みを通して、座学にとどまらず、総合的なものづくり教育も包括し、子供たちの好奇心を刺激し、科学や工学に対する興味を呼び起こし、ものごとを体験し理解することを楽しむ教育を実現した。



ハロウィーンの展示のための
オブジェクト



ロボットレース競技の実演・実習の様子



光に関する教示実験の様子

参考文献

- 1) 厚生労働省ホームページ,平成 25 年度 児童養護施設の施設数,定員,在所者数, http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000040354.pdf
- 2) 厚生労働省ホームページ,厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課,社会的養護の推進に向けて,平成 29 年 3 月, http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/syakaiteki_yougo/index.html

事業名称: 児童養護施設での学習支援活動

事業責任者: 川戸 栄 (工学研究科・准教授) 代表学生: 三浦 柗一郎 (工学部・2年)

・事業の背景および目的

厚生労働省によると、福井県内の養護施設には163名(H25年10月1日現在)の子供が暮らしている。施設の子供たちの中には、学業不振など、様々な問題により将来に関して悲観的になり、進学も諦めてしまいがちな子供も多い。彼らの進学率を上げるだけでなく、社会で生き抜くための自身や意欲を育むためには、試験勉強ばかりで勉強嫌いにならないよう、小さい頃から好奇心や興味を育む必要がある。

そこで、本事業では、県内の児童養護施設で暮らしている子供たちに対して、ものづくり教育や教示実験実習を含めた幅広い学習支援を行った。これにより、子供たちが進学を目指すだけでなく、将来、社会で生き抜くための自信や意欲を育むことを目的とする。

・事業の内容および成果

ものづくり教育では、県BBS連盟、仁愛大学および本学の学生サークルBBSの共催のもと、ハロウィーンをテーマにしたオブジェクトの制作を行った。子供たちがグループになって作品を完成させ、一般を対象にした展示と発表会を行った。作品の制作から発表の場を通して、子供たちが自由に語り合う場をつくり、コミュニケーション力、グループワーキング力、プレゼンテーション能力も含めた総合的な能力の養成を行った。

また、教示実験実習では、本学の学生サークルからくり工房I.Sysと国際光学会学生支部(OSA)、国際光工学会学生支部(SPIE)、国際電気電子学会学生支部(IEEE)の共催のもと、光に関する自然現象を利用した教材や、ロボットを教材とした体験型の教育をおこなった。光の教示実験装置では、屈折の分散、偏光と複屈折を利用した虹、色眼鏡を利用した光の3原色の合成などを行った。ロボットを用いた実習では、有線で遠隔操作できるロボットを用いた相撲競技や、白線で書かれた競技コースで順位を競うロボットレース競技を実習した。

以上の取り組みにより、座学にとどまらず、総合的なものづくり教育も包括し、子供たちの好奇心を刺激し、科学や工学に対する興味を呼び起こし、ものごとを体験し理解することを楽しむ教育を実現した。



ハロウィーンの展示のためのオブジェクトの制作



光に関する教示実験



ロボットレース競技の実演・実習



ロボット相撲の実演・実習